

# ODA

## 沖縄脊髄損傷者連合会

# しゃりん

# 84

編集: 沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211  
〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1西棟2階・ボランティア小規模団体室  
Eメールアドレス [sekiren@proof.ocn.ne.jp](mailto:sekiren@proof.ocn.ne.jp)  
ホームページアドレス <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>

### 第8回全国総会

### 大阪大会参加報告

会長 仲根建作

去った6月6日(土)～8日(月)に第8回全国総会が大阪府の「全日空ゲートタワーホテル国際会議場」で開催され、沖縄から仲根(会長)、上里(副会長)及びサポーターの宮良一美さんの3名が参加しました。新型インフルエンザの影響から一部参加者のキャンセルもあったよううで、少し空席が目立った感があり、運営された大阪支部の皆さんの四苦八苦に頭が下がる思いでした。

日程のなかで、沖縄県支部の役割として、ピアサポートモデル事業の事例発表がありました。沖縄含め大阪支部、千葉県支部の3

支部が発表となったのですが、沖縄の事例は「個別支援」として事例記録シートに基づいて、上里副支部長が発表しました。予定時間20分を少しオーバーしたのですが、個別支援事例だったこともあり、他支部発表よりは、理解しやすく支援像が見えやすい発表で評価されたと感じます。しかし、同事業の全国実施が



低調だったこともあり、予算執行率が低くなっていたことを反省し、各支部の一層の推進努力の促しが強くありました。また、全脊連への依頼事項で「車椅子ツインバスケットボール競技の普及促進」がありました。この依頼文は仲根がツイン連盟と協議し作成したものです。最近の全脊連の会員減少傾向の問題から、脊損スポーツ団体や頸損連絡会等との大同団結の呼びかけの必要性も議論されました。

今総会の最も大きな協議事項が「公益法人化」でした。これは、昨年12月に新しい公益法人制度がはじまり、全脊連も2013年11月までに新しい制度に基づく公益法人又は一般社

団法人のいずれかに移行を選択するといふものですが、公益法人はハードルが高く各支部の会計と本部会計の連結決算等、支部にも厳しい機能を求める内容のようでした。今大会の協議では、“公益法人を目指しながら、課題整理、可能性シミレーション等の分析を行ったうえで、次回または次々回の総会で議論・決定する”ということになりました。寄付行為の税制優遇があるが、沖縄としては連結決算等デメリットが高く、現時点では厳しい条件のようで、沖脊連でも協議を重ねることとなりそうです。

私は10数年ぶりの総会参加で、久々の熱い議論の輪に入った感があります。

今後、他の役員が交互に参加し、全国の仲間たちとの交流を通したレベルアップ機会にもなると感じました。

### 奥武山球場立替工事

去る6月1日(月)那覇市古島にある、那覇市障害者センターにおいて、現在、立替工事中の(仮称)那覇市営奥武山野球場と隣接する多目的屋内運動場のバリアフリー状況等の説明会がありました。

説明会には、計画を進めている那覇市の担当部局や設計・施工を執り行っている現場の方、また、バリアフリーを研究している民間団体や那覇市に在住の障害者を合わせて、約30名の参加者で、市民が利用しや



すい野球場と多目的運動場の設置に向けて、活発な議論がなされました。

「那覇市福祉のまちづくり条例」を基に建設されている新しい奥武山球場は、2年後にプロ野球読売巨人軍がキャンプを行うことも表明しており、今後、リニューアルされた球場は、大きな注目を集め、多くの人たちが利用することが想

定され、バリアフリーが整った誰もが利用しやすい施設だと言われるような建物になることを大いに期待しています。

(報告：上里)

### スポーツクラブ紹介 沖縄県車椅子陸上クラブ 「ターゲットス」

沖縄県車椅子陸上クラブ「ターゲットス」は、競技を通して会員相互の親睦をはかり、身体障害者スポーツの発展を目的に平成元年に設立され、現在会員サポートも含め25名で活動をしています。主に県内の大会としては、毎年12月開催される宜野湾車いすマラソン大会や県外は大分国際車いすマラソン大会はじめ、これまでに全国車椅子駅伝

大会（京都）に沖縄県代表として4回出場経緯があります。また、個人競技者としてご承知のとおり当クラブ会長は、昨年2008パハリピック北京大会に日本代表として出場、200m・400m・800mの3種目で入賞、フルマラソンで見事2位（日本新記録樹立）となる県内初の銀メダルを獲得、帰国後マスコミ等で取り上げられるなど多くの県民に感動を与え、県知事から県民栄誉賞が贈られました。現在ハーフマラソンやフルマラソンの日本記録保持者（T52クラス）でもあります。

北京大会後、県内の競技関係者に大きな影響とまたこれから競技に関わる児童に励みとなり、車椅子マラ

ソン競技に対する関心や意識に変化がみられ、平成19年に沖縄県身体障害者陸上競技協会が発足、県内の身体障害者スポーツの発展と拡大のため、身障陸上競技会と連携を図り、特別支援学校等において技術指導を実施するなど、県内の陸上競技児者の育成に努めています。大会以外での活動としては、毎年12月に実施される沖縄県身体障害者福祉協会主催「障害者週間」に車椅子陸上クラブスタートルズで参加し、競技用レーサーで国道を走りながら、障害者への関心と理解を求める目的で啓発広報活動に積極的に協力しています。最後に練習日ですが、毎月第2日曜日午前10時から宜野湾市宮陸上競

技場（状況に応じ時間、場所変更あり）で実施、また自主練習については各々近隣の陸上競技場で行ってます。沖縄連合会員はじめ関係者の皆さんで、車椅子マラソンに興味のある方また、随時競技協力者も募っていきますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

会長・上与那原寛和

(090)8353-8819



広告(エアー沖縄)

おすすめ

バリアフリー店情報④

NY和琉きずなみち  
絆道

国道58号線久茂地交差点の喧騒から一歩足を踏み入れた閑静な細道にたたずむ『NY和琉絆道(きずなみち)』

『絆道』の看板。その看板の下から延びる短いスロープを上り、木のぬくもりが暖かいドアを開けてみると、そこには明るい店内をひきかたてる「ニューヨーク×和×琉球」の雰囲気漂う内装が。一瞬にして心に明かりが灯ります。センスよく並べられた写真の数々に

新しい何かを期待してしまっています。オーナーは投稿者の中学時代からの親友ということもあって、店を構えるにあたり、車いすでも気軽に食事・デートが楽しめる店づくりをしてくれました。入口のスロープはもちろん、トイレの広さも当事者の声を反映したものでなっています。(駐車場が周辺の有料を使うしかないのがちよつと不便...)また、陽気なオーナーとイケメン店員は、共に県立芸大を卒業した音楽のホンモノなので、夜のひとときに突然三線の音楽が流れ、酒の場を盛り上げる楽しい歌とカチャーシーの音楽タイムが始ったりします。料理の味も値段も納得のバリアフリー対応居酒屋『絆道』。

ぜひ一度、大切なひとときを過ごしてみたいかがでしょうか。

NY和琉「絆道」

那覇市久米2-16-1

098-863-5177

ピアサポート

☆沖縄脊連では事務局に担当者置き、ピアサポート事業を行っています。受傷間もない方の相談や、生活で困っている事、市町村などから受けられる支援などの情報を提供しています。ご相談のある方はお気軽に事務局までお問合せください。

「ご相談・事務局」

098-886-4211

(火曜日を除く午後1時〜

5時30)

「事務局担当」牧志・内間

広告(ちはる歯科)

毎月三十日発行  
ODA通巻470号

発行人 沖縄県南風原町字神里六三二  
沖縄県身体障害者福祉協会

編集人

沖縄県那覇市石嶺町四一三七三一西棟2F  
ボランティア小規模団体室・しゃりん編集部

上里一之

購読料は会費を含む  
【頒価 二十円】